

運動の好き嫌いによるスポーツに対する価値観の違いについて

— 高校生の体育祭に対する意識に着目して —

寺崎 昌志 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：高校生、運動の好き嫌い、体育祭、価値観

1. 緒言

運動をすることによって、消費エネルギーを増やし運動不足から生じる病気を予防できる。それだけでなく、私たち自身に様々な質的変容をもたらす。そして、健康という大きな財産へ導いてくれる。「機械化」、「都市化」の進んだ現代社会では、運動不足が問題視されている。

「好き」、「嫌い」ということは多くのことに存在する。運動についても存在するが、生まれつきということとは考えにくい。人的環境条件や物的環境条件が影響していると考えられる。それ以外に経験内容や体験内容といったことも考えられる。現在の運動の好き嫌いがどのようにして形成され、その原因が明らかにされることは、運動の指導に係わる指導者だけでなく、子育てをする親にとっても非常に役立つ。

運動の好き嫌いによって、スポーツ（本研究では体育祭・スポーツ大会）に対する価値観はどう違うのかということ明らかにしていく。

2. 研究方法

- 1) 調査方法 アンケート調査
- 2) 調査対象者 大阪府立 Y 高等学校 2 年生 330 名

3. 結果および考察

運動が好きと答えた人は 76% で嫌いと答えた人は 24% だった。運動が好きで体育祭も好きと答えた人は「運動が好きだから」と答えた人が多かった。(33.5%) そのほかに「達成感や団結力が深まるから」と、体育祭を通してクラスや学年、学校全体の団結力を高めたいと考えたり、体育祭までの過程があり、やりきったあとの達成感が好きという意見があった。反対に、運動が嫌いでも体育も嫌いだと答えた人の多くは「運動ができないのがばれるから」(31.1%) 「自分のせいで負けるから」(13.3%) だった。運動が好きで体育祭も好きと答えた人とは違い、体育祭に対してよいイメージがない。運動が好きで体育祭が嫌いだと答えた人は、「人前で走るのが苦手だから」と答えた人が多く

(19.2%)、体力や身体能力といった身体的なことではなく、体育祭というイベントが嫌いだと答える人が多かった。運動が嫌いでも体育祭が好きと答えた人は逆に、「体育祭の雰囲気が好き」と答える人が多く (41.9%)、運動することは苦手だが、みんなで応援したり、みんなで楽しんだりといった「みんなで」という雰囲気が好きで、体育祭というイベントが好きと答える人が多かった。

4. まとめ

運動が嫌いになった原因の多くの理由は「体力や身体能力に自身がない」ということだった。そう答えた人のほとんどは幼稚園（保育園）、小学校までは積極的に運動をしていたが、体力や身体能力に差が出始める中学から嫌いだと答える人が多いと明らかになった。また、男性よりも女性の方が運動を嫌いになる傾向が見られた。女性は「怪我などの体験」や「心理的木傷つき」といった、心理的なことから嫌いになるといった理由も見られた。

運動が好きで体育祭も好きと答えた人は、体育祭を楽しみながら、勝ち負けも考えている。さらに、体育祭を通して団結力を高めたり達成感が良いといった考え方をしている。一方で、運動も体育祭も嫌いだと答えた人は、体育祭に良いイメージはなく、運動ができないことがばれるのを恐れたり、負けた時の責任感が嫌だからと、運動の好き嫌いで考え方が全く違うことが明らかになった。また、運動が好きで体育祭は嫌いだと答えた人は、体育祭という雰囲気やイベントといったことが苦手で、反対に運動が嫌いだと答えて体育祭は好きと答えた人は体育祭の雰囲気やイベントが好きだと、違う考え方をしていると明らかになった。

【引用参考文献】

荒井 迪夫・周東 和好 (2003.2) 運動嫌いに関する一考察 淑徳短期大学研究紀要第 42 号